

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775802198		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家平野(ユニット1)		
所在地	大阪市平野区加美西2-6-13		
自己評価作成日	平成25年6月17日	評価結果市町村受理日	平成25年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2775802198-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成25年7月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月のイベント時に食事内容やおやつ好きな食べ物を、ご利用者様に伺い作って食べて頂いている。ご利用者様の要望を聞きながら、できるだけ外出の機会を作るように取り組んでいる。入浴や散歩、食事など出来るだけ希望に添うように支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは居心地の良い共用空間作りに配慮し、リビングの一角に本好きな方の為の雑誌コーナーの設置やソファーでは仲の良い方同士が談笑しながらテレビを見たり、時にはマッサージチェアを利用して寛ぐなど、思い思いの居場所で過ごしています。また、外出時の写真を飾ったり、アルバムを置き、利用者や訪れた家族がいつでも見て楽しめるようにしています。毎月ホーム新聞を発行すると共に、一人ひとりの利用者の暮らしぶりや様子を知らせる手紙を家族に送付し、家族の安心感に繋げています。24時間対応可能である協力医や訪問看護との連携体制が整えられており、看取りの意向があればできる限りの支援を行うために看取りに関する研修に参加し、学ぶ機会を持ちながら職員間で方針を共有しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を作り、ご利用者様にとってグループホームでの生活に楽しんでもらえるよう、職員一人ひとりが考えを持ち行動できるように取り組んでいる。	法人理念を基に管理者を中心に話し合い作られた理念には、笑顔や利用者第一、地域交流などを盛り込んだ8項目が掲げられています。入職時に法人理念やホーム理念について伝えていますが、全職員に十分に浸透できておらず、振り返りや確認も行われていない状況です。	理念を全職員に意識づけや浸透できるように会議の場などで話し合う機会を持たれてはいいかがでしょうか。全職員が同じ方針を共有できるように取り組まれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	福祉センター主催ふれあいサロンに週1回通い 地域の方との交流の機会がある。コンビニなど利用者と買い物に行き挨拶など交流をしている。	町会に加入し、回覧板や運営推進会議、地域の掲示板などから地域の情報を得て、神社の祭りやふれあいサロン、小学校の行事の見学などに出かけています。買い物はできるだけ近隣の店を利用し、店員と顔見知りになり声をかけてもらっています。また定期的に踊りのボランティアの来訪があり、交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事やふれあいサロンに参加し、少しずつ活かされている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開き、サービスの報告意見交換から今後の向上に努めている。	会議は地域包括支援センター職員や利用者、時には町会長の参加を得て、2ヶ月に1回開催しています。ホームの状況や行事の報告などを行い、参加者を増やすための工夫などについて話し合っています。全家族に開催案内を行っています。参加には至っておらず、地域から民生委員の参加が得られるよう働きかけています。	運営推進会議は家族や地域の方に理解と支援を得る機会であり、家族が知りたい情報を取り入れたり、興味を持ってもらえるよう取り組み、家族や地域からの参加が得られることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者様の状況報告に努め、情報の共有に努めている。	諸手続きなどは本社が一括して行っており、今後は運営面で分からないことなどがあれば、管理者が電話や出向いで相談していく予定としています。生活保護の担当者との連携は取っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修に管理者が参加し、職員に伝達研修して取り組んでいる。玄関の施錠については日中帯は開けて対応をしている。	身体拘束に関する法人研修を管理者が受講し、全体会議で職員に伝達研修を行い、言葉による抑制や制止についても伝えていきます。フロアの出入り口は家族の了解を得て、ロックしていますが、外出したい方には職員が付き添い一緒に出掛けたり、気分転換してもらい拘束感を感じないよう支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修に管理者が参加し、職員に伝達研修して取り組んでいる。		

グループホームたのしい家平野(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修に管理者が参加し職員への理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約などの際は十分に説明と質問を重ね入居後も疑問点があれば伺えるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には日頃の様子など伝えたり聞く機会を作っている。運営推進会議への参加も進めている。	家族の来訪時に利用者の様子を伝える中や、面会が少ない家族には電話や手紙のやり取りを行い様子を伝え意見や要望を聞いています。意見は出にくい状況ですが、意見や要望が出された場合は、速やかに対応し運営に反映したいと考えています。法人でアンケートも実施しており、結果は家族に報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回スタッフミーティング、各フロアごとのカンファレンスを開き、職員の意見や提案を聞く機会を設け、ケアの向上に反映させている。	職員の意見は主にフロアごとのミーティングで出されることが多く、利用者の状態に合わせた業務分担など、積極的に意見交換が行われ、出された意見や提案を検討し業務改善などに取り組んでいます。また管理者は意見を出し易いようフロアリーダーや職員と随時面談し、個別に意見を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	誰伸人事制度を導入し評価を行っている。面談を行い現状の確認と次への目標ステップなどの確認をして評価を行う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の年間計画研修への参加、伝達と外部研修への参加をして地域との連携やサービスの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の家族の会に参加し意見交換、交流に努めている。		

グループホームたのしい家平野(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時アセスメントなどの時に意見要望をよく聞き不安なことがあれば聞き安心を伝え入居後も要望があれば聞く体制を作り努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせや見学の時に意見要望をよく聞き不安なことがあれば聞き安心を伝え入居後も要望があれば聞く体制を作り努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族様に話を聞き、必要なサービスができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活として共に生活をしている気持ちを持ち関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意見や意向をよく聞きとり面会時には家族の時間を過してもらい関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人、子供、孫などにも気軽に面会に来て頂いています。買い物や外食が好きな方への外出外食支援に努めています。	地域の行事に出かけた先で、友人や知人と出会った際は会話などを楽しんでもらったり、以前良く行っていた店での外食や買い物に出かけています。友人から届いた年賀状を家族が持参されることもあり、希望があれば代筆などの支援をしています。また家族と法事に出かける利用者は外出がスムーズに行くよう準備を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に作業をしたり外出や複数で話をして関係が深まり楽しめるように努めている。		

グループホームたのしい家平野(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の相談時に今後も質問や聞きたいことがあれば連絡を下さるようにお伝えをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族様に話を聞き、必要なサービスができるように努めている。	入居時に利用者や家族から生活歴や趣味、趣向、身体状況、これからの暮らし方の希望などを聞き、思いを把握できるよう努めています。把握が困難な場合は再度家族に聞いたり、関わりの中から得られた情報を職員間で本人本位に思いを汲み取れるよう話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に本人、家族に生活状況生活環境などを聞き入居も安心して生活が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人一人が意識し状況把握と変化があった時の情報共有と対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを開き意見やアイデアを反映し介護計画の作成をしている。	アセスメントや面会時に聞いた家族の意向などを基にサービス担当者会議を開催し、介護計画を作成しています。3ヶ月毎に居室担当者の意見も聞きながらモニタリング及び評価を行い、状態に変化がなければ6ヶ月毎に再アセスメントを行い、介護計画を見直しています。往診時の医療情報も必要に応じて反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス担当者会議を開き話し合いを行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望や状況を把握して状況に応じて取り組めるように努めている。		

グループホームたのしい家平野(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出など機会を積極的に作りストレスなどの軽減と気分も豊かに生活が出来るように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診ドクターに週2回往診に来て頂いています。通院が必要であれば紹介状を書いてもらい受診します。	入居時にかかりつけ医を継続できることを伝えると共にホームの協力医についても説明し、決めてもらっています。現在はほとんどの方が協力医に変更し、2週間に1度の往診や随時往診してもらっています。他科への受診は職員や家族が付き添い、その都度情報を共有しています。また週に1度訪問看護による健康管理が行われ、希望に応じて訪問歯科を受けてもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護記録や連絡帳に日々の様子変化、気づきなどを記録し看護師に情報を伝え連携を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師と連携が図れるように定期的に様子を伺いに行くことと経過と状況の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの対応を行っていることの説明を行っている。重度化した場合や対応については医師との連携を図り行えることの説明をしている。	入居時に看取りの指針に基づいて説明し、希望があればできる限り支援を行う事を伝えていきます。時期が来たら医師から家族に説明が行われ、ホームで対応できる内容について説明の上、再度意向を確認し方針を話し合い対応していきます。管理者は法人で行われる看取りの研修などに参加し伝達研修をホームで行い、学ぶ機会を持ちながら職員間で方針を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行いカンファレンス時など確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行っている。	年2回、消防の指導の下、昼夜を想定した避難訓練を実施しています。出火場所を想定し、通報や水消火器の使い方などを消防のアドバイスをもらいながら実施しています。地域の協力が得られるよう、日頃から良好な関係を築けるよう取り組む予定としています。	地域の方の協力が得られるよう訓練の開催を地域の方に知らせたり、運営推進会議で議題に上げる事から始められてはいいかがでしょうか。

グループホームたのしい家平野(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マナーや接遇、人権の研修を行い職員一人一人が意識するように努めている。	法人の接遇マナー研修を管理者が受講し、全職員に伝達し、周知できるよう努めています。日頃は利用者への挨拶を大切に行い、親しみを込めながらも丁寧な言葉で対応するよう努めています。名前は名字で呼ぶことを基本とし、利用者に分かりやすい呼び方をすることは、話し合っています。言葉遣いが乱れた際は職員間で注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話をしやすいような環境作りや対話の中から信頼関係を築き思いを表せる環境を作る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の気持ちを尊重し理解をして思いを汲みとり支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベント時や外出時には女性の利用者は化粧をして気分もよく外出をしている。男性利用者は髭剃りなど整髪を整えている。2ヶ月に1度訪問理容にてカットをする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と職員が同じ物をテーブルを囲んで食事の感想や話をしながら食べています。盛り付けや食器の洗い物などをして頂いています。	業者が立てた献立に沿って食材が届き、利用者はテーブルの上で下ごしらえを行ったり、盛り付けや下膳など、できる事に携わっています。時には食材を止めて利用者の希望を聞き鍋料理を作ったり、オードブルなどの出前、少人数での外食も取り入れるなど、楽しんでもらっています。職員も一緒にテーブルに着き、感想などを話しながら同じ食事を摂っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者に食材を頼み献立と栄養のバランスレシピ作りをしてもらっている。水分量は食事の時と入浴後など喉が乾く前という意識を持ち提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを介助の利用者は職員で行い、出来る利用者は自身で歯磨きをおこなってもらう。週に1度訪問歯科に来てもらいケアをしてもらっている。		

グループホームたのしい家平野(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間間隔でのトイレへの声かけと誘導を行い、時間以外でも気づきがあれば声かけ誘導を行い支援を行っている。	個々の利用者の排泄リズムや尿意の有無を見ながら、声掛けや誘導を行っています。夜間は紙パンツの利用者も日中は布の下着で過ごしてもらい、失敗に繋がらないよう工夫して支援しています。毎朝の申し送り時に排泄状況について話し合い、情報を共有しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操などで体を動かして食べ物では乳製品など工夫をして提供するようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、午前中に入浴となっているが、ご利用者の希望があれば、対応している。拒否される方には無理せず、個々にそった支援をしている。	入浴は概ね週2回、午前中に入ってもらい、希望で午後から入る利用者や毎日入ることも可能です。夕食後の入浴についても、職員体制がある時間帯で希望があれば入ってもらえるよう検討し対応する予定です。好みで入浴剤を入れたり、一人ずつ湯を入れ替え、マンツーマンでゆっくり入ってもらっています。入浴を拒む方は理由を探ったり、時間を変えて声をかけるなど工夫しながら支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	訴えなどがあれば昼寝や体を休めることができます。室内の環境や空調などにも気をつけて気持ちよく眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬情報のファイルがあり確認ができ理解に努めています。医師や看護師にも相談、連携を取れる体制になっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の楽しみなことを把握し実践しています。出来ることの継続やお手伝いなどの役割を持ってもらい生活感と気分転換に繋がるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園に散歩に行ったり、福祉センターの行事やふれあいサロンに参加したり、外出を楽しんだりしてもらえるように支援している。	天候が良ければ毎日交代で散歩に出かけています。季節の花見や初詣、個別や少人数で利用者が行きたい所に出かけたり、買い物や外食などにも出かけています。車いすの利用者も偏ることなく出かけられるよう支援しています。また玄関先や庭で気分転換することもあります。	

グループホームたのしい家平野(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員同行で買い物や必要な物は利用者と買いに行くようにしています。精算時には利用者にお金を渡し支払いと受け取りをしてもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば電話をして会話をしてもらえるようにしています。家族へも説明をして了承を得ています。手紙は希望があれば年賀状などの受け渡しや代筆もできます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、浴室は分かりやすく表示し、居室入口には目印をつけた手作りの表札を行っている。	玄関先に利用者と花を植えたり、リビングや廊下の壁には、季節に応じた飾り付けを利用者と一緒に行い、季節感に配慮しています。また外出時の写真を飾ったり、アルバムを置き、利用者や訪れた家族がいつでも見て楽しめるようにしています。利用者はソファで寛いでテレビを見たり、本が好きな方のための雑誌コーナー作り、マッサージチェアを置くなど、思い思いに過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルとソファの両方があり好きなほうで過ごしてもらうことができます。畳の和室もあり独りでも利用者同士でも過せる空間、居場所があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様、ご家族様と相談し居心地良く過ごせるように工夫している。入居時に今までの馴染みの物、家具、写真などを持ってきてもらえるように話をしている。	入居時に自宅で使っていた馴染みの物など、危険な物以外は何でも持って来てもらえることを伝えています。利用者は使い慣れたタンスや座布団などを持ち込まれ、家族と相談しながら過ごし易いよう配置したり、仏壇や家族全員が写っている写真など、大切な物を身近に置き、安心して過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下にトイレなどに段差などではなく安全に歩行ができるようになっている。必要であれば手すりもあり歩行して頂き自立を目指した支援をしています。		